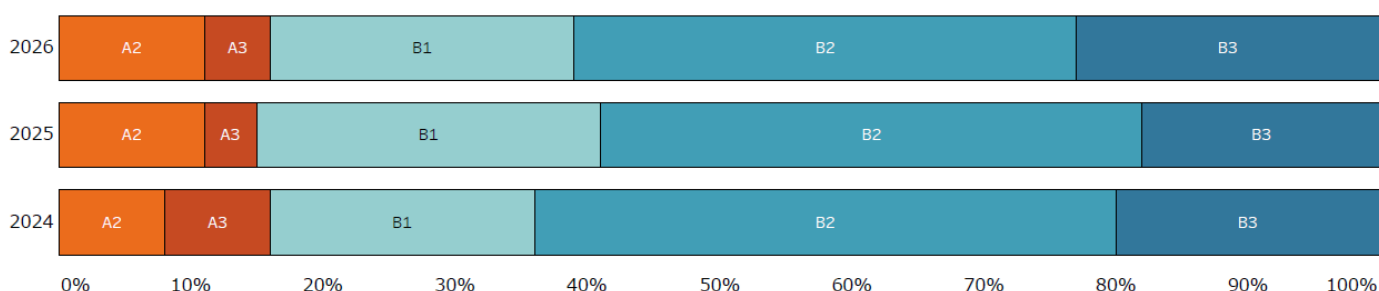


2026 年 桜蔭 算数

過去 3 年の思考コード別出題割合は次のようになります（A は基礎的な知識・技術、B は論理的な思考力が問われる問題。数字が大きいほど難度も高い）。高度な論理的思考力が求められる B2、B3 の問題が中心となります。調べる問題が多く、50 分ではかなり厳しいです。限られた時間を考慮すると、問題を見極めて取捨選択する必要があります。また、計算量の多さも例年通りでした。冒頭の計算問題だけでなく、他の問題でも手間がかかります。正しい答えを素早く求める計算力と共に、全ての場合を正確に調べる力も必須となります。



大問 1 は、例年通り計算、一行題でした。2025 年の計算問題は逆算 1 問でしたが、2026 年は順算 1 問でした。手間はかかりますが、確実に得点したいです。(2)は、不定方程式を利用する問題でした。②の題意がとらえづらかったと思います。3 と 7 で作ることができない数に着目して考えますが、手がかりがつかめなければ後回しでよいと思います。(3)は、場合分けして調べる問題でした。解答欄が余るのですが、問題文に「ただし解答欄を全て使うとは限りません」と示されていないため、「他にも答えがあるのかもしれない」と思って、想定以上に時間を使ってしまった受験生もいたのではないかと思います。(3)力は、無理せず見送ってもよいと思います。

大問 A2 は、展開図を素材にした問題でした。(1)(2)は確実に得点しておきたいです。(3)の正二十面体は調べるのが大変です。「切り開く辺の数」についての知識があるかどうかで差が付いたと思います。

大問 2B は、道順を調べる問題でした。(1)は確実に得点しておきたいです。(2)は、「かかる時間が一番長いとき」とあるので、最も長い右斜め上の道を通りたくなるのですが、調べてみると通りません…。無理して調べようとせず見送ってもよいと思います。大問 3 は、数を調べる問題でした。大問 1、大問 2B と続き、ここでも調べる力が問われます。切り捨ての計算もあって、かなり手間がかかります。試験時間も限られているので、思い切って見送り、大問 4 に進むのも手なのかなと思います。

大問 4 は、立体の回転体でした。計算が面倒そうだなあとと思いますが、ア、イ、エは「 $\square \times 3.14$ 」と、3.14 の計算をしない形での解答となります。「O」「I」「N」それぞれが線対称・点対称な形となっているため、知識としてパプス・ギュルタンの定理を知っていると有利だと思いますが、あやふやな理解の場合、無理して使わず、体積比を利用して求めてもよいと思います。

調べる問題が多く、時間内に完答するのはかなり大変だと思います。適宜取捨選択をして時間を有効に使っていきたいです。大問 1(3)力、大問 2A(3)、大問 2B(2)、大問 3 は深追いせず、大問 4 に時間を使う方がよいかなと思いました。